



令和7年度 No. 10

鴻小だより

学校教育目標「ひとみ輝き 笑顔あふれる 鴻池小学校」

令和7年9月1日

伊丹市立鴻池小学校長
粟生 桂 治

令和7年度全国学力・学習状況調査について

6年生を対象に、4月17日（木）に行われた「全国学力・学習状況調査」結果について、本校の状況と今後の取り組み等についてお知らせいたします。なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり学校における教育活動の一つの側面であることをご理解下さい。

○調査内容について（「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

1 教科(国語・算数)に関するもの

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等を問う問題

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等を問う問題

※調査問題は、上記①と②を一体的に問う内容で、出題形式は記述式の問題が一定割合導入されていました。

2 児童質問調査(生活や学習に関するもの)

学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。調査項目には、学校や家庭での学習に関することやICT機器等の活用状況に関する質問がありました。

2 学力に関する調査の結果について

・国語は全国平均を少し上回る結果となりました。内容について、国語では、「話の内容を捉える力」や、「文章の構成を考えることができる力」に関する問題はよくできていました。

一方、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」や、「文章と図表などから必要な情報を見付けることができる力」に課題が見られました。また、漢字が苦手な児童も全国平均に比べ少し多い傾向が見られました。

・算数は全国平均を少し下回りました。算数では、「資料から条件に合った項目を選ぶ力」や「変化する二つの数量から必要な数量を見いだす力」に関する問題はよくできていました。

一方、「図形の性質の理解や角度、面積を求める力」に課題が見られました。

・理科も全国平均を下回りました。理科では、答えを導き出すための根拠や仮説にもとづき回答できる力や、実験結果から考察できる力が求められる内容でした。『生命』を柱とする領域はよくできていました。一方、『エネルギー』を柱とする領域に課題が見られました。

3教科ともに無解答率(何も書かないこと)は全国と比較しても低く、難しい問題でもあきらめずに、一生懸命に問題に取り組む子どもたちの姿勢を窺い知ることができる結果でした。

3 児童質問調査の結果について

児童質問紙の回答により、本校の児童の生活習慣や学習環境等について、以下のことが明らかになりました。

①「朝食を毎日食べている」の割合は、86%でした。昨年度よりも6ポイント減少しました。1割以上の子どもが朝食を食べていないことになり、気になる結果でした。

②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の割合は、77%で昨年度よりも7ポイント減少しました。

③「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の割合は、89%で昨年度よりも5ポイント減少しました。

①～③から、生活習慣が定着している児童が大半で、1～2割合の児童が規則正しい生活について改善の余地があることが見受けられます。

また、自己肯定感に関する質問では、⑤「自分にはよいところがある」、⑦「将来の夢や目標を持っている」、⑪「人の役に立つ人間になりたい」の割合は、8割から9割の児童が肯定的な回答をしており、この数年の課題であった自己肯定感の向上への取り組みは一定の成果が見受けられます。また、これに関連して⑥「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が94%で、引き続き子どもたちの良いところを引き出せるような工夫に取り組んでいきます。

⑦「学校に行くのは楽しい」の割合は、82%でした。居心地のよい学校を目指します。

⑧「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」は、全国の平均使用時間を上回っていました。

⑨「家庭学習(塾を含む)の時間」の割合では、平日、休日ともに1時間～2時間が最も多く、年々増加傾向にあり、引き続き課題の工夫や家庭と連携をとりながら家庭学習の大切さを子どもたちが理解できるよう取り組んでいきます。

4 これからの対応

① 基礎学力の向上

引き続き、朝学習(8:30～8:45)の時間で漢字・計算等、基礎学力の定着と、読書の時間をとり語彙力読解力の向上を図る。

② 自分の考えを表現する場の設定

根拠を明確にして自分の考えを表現する思考力、判断力、表現力等の育成に取り組む。

③ 学びの土台づくり

学びの土台となるのは、「学級である」という認識のもと、子どもたちの自治能力を育み、学級力の向上に努める。

④ 保護者との連携

「家庭学習の手引き」により、引き続き家庭との連携を深め、学習・生活習慣の改善を図る。